第三十一回 相模原薪能 番組

平成三十年八月十五日

挨拶　金子直樹

火入れ式

解説

《仕舞》
鶴亀　土田英貴
鞍馬天狗　松山隆之

《狂言》
棒しばり　次郎冠者　山本則俊　主人　山本則秀　太郎冠者　山本則重　後見　若松隆

《仕舞》
山姥　（人間国宝・日本芸術院会員）梅若実

《能》
天人　松山隆雄
羽衣　和合ノ舞　漁夫　村瀬慧

後見　松山隆之　小田切康陽　地謡　鷹尾雄紀　土田英貴　川口晃平　角当直隆　柴田稔　角当行雄　梅若実　梅若紀彰

笛　栗林祐輔　小鼓　田邊恭資　大鼓　佃良太郎　太鼓　澤田晃良

あらすじ

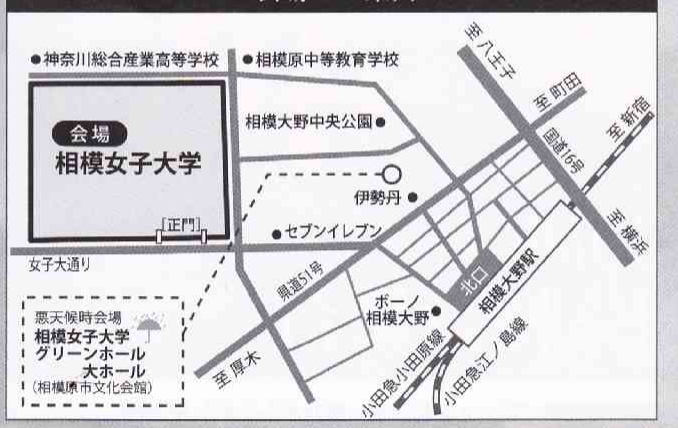
狂言「棒しばり」

家を留守にするたびに、太郎冠者と次郎冠者が酒の盗み飲みをしていると知った主人は、お仕置きに二人を騙して縄に縛り、そのまま出かけて行ってしまいます。縛られても懲りない二人は、酒蔵へ向かい、酒の匂いをかぎ出すと、矢も盾もたまらずに酒を飲みたくなってしまいます。二人は縛られたまま器用に酒を酌み交わし、やがて舞いや謡いの酒宴をはじめます。そこにちょうど帰って来た主人が、酒盛りの有様を目撃して、問いただします。太郎冠者と次郎冠者はひたすら謝り、帰っていきます。

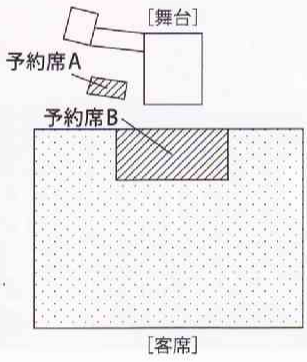
能「羽衣」

漁師の白龍が、今朝も三保の松原に来ると、松の枝に美しい衣を見つけ、持ち帰ろうとします。すると、美しい天人が現れ、その衣は天の羽衣だから返してほしいと頼みます。ところが、白龍は家宝どころか国の宝にすると言って返そうとはしません。天人は羽衣なしでは天に帰れず、悲しみに沈みます。同情した白龍は、羽衣を返す代わりに天人の舞楽を所望すると、天人は、これを承知し、まずは羽衣を返してほしいと言います。白龍は、天人を疑いますが、嘘はつきませんという天人の言葉を信じ羽衣を返します。その羽衣を身につけた天人は、のどかな浦の景色を謡い、優美な舞を舞います。東遊びの数々を舞った天人は地上に宝を降らしますが、時が過ぎ天上に帰る時間がきたので、大空の霞にまぎれて遥か天空へ舞い上がり、月に帰っていくのでした。

会場のご案内



座席のご案内



当日席（900席）
入場無料・全席自由

予約席（500席）
指定席500円

※予約席A（100席）、予約席B（400席）は同額です。

7/21（土）10:00より発売開始
（発売初日は電話予約・インターネット販売のみ）

チケットMove ☎042-742-9999
チケットムーブ.net http://move-ticket.pia.jp/

※お一人様4枚までとさせていただきます。
※予約席のチケットは振替会場でも有効です（振替時の払い戻しはありません）。
※相模女子大学グラウンドでの開催時に急な悪天候等で中止になった場合でも、仕舞「鶴亀」開始後は払い戻しできません。

ご来場のお客様へ

○悪天候時は相模女子大学グリーンホール（相模原市文化会館）・大ホールにて実施します。
実施会場の決定は、当日16:00時点の天候や会場状況により判断します。
（当日財団ホームページ等でお知らせします）
○会場に専用駐車場はありません。お越しの際は、公共交通機関をご利用ください。
○会場敷地内には17:00までご入場いただけません。会場前での開門待ちはご遠慮ください。
○写真撮影・録音・録画は禁止です。
○アルコールの持ち込みはご遠慮ください。
○正門周辺を含む会場敷地内は禁煙です。
○ペットを連れてのご入場はご遠慮ください。但し、身体障がい者補助犬は一緒に入場できます。
○満席の場合は立ち見となりますのでご了承ください。

お問合せ
公益財団法人 相模原市民文化財団
☎ 042-749-2207

ホームページでも情報を配信しています。
公益財団法人相模原市民文化財団　検索
twitter @Sagami_BUNKA